豫戒令廢止ノ件

（参照添附）

秘

大正三年一月十四日 決議
會議議案

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

勅令第　號

豫戒令ハ之ヲ廢止ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

参照

○豫戒令（明治二十五年一月勅令第十一號）

朕公共ノ安寧秩序ヲ保持スル為樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ豫戒令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

豫戒令

第一條　警視總監北海道廳長官府縣知事ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持スル為メ左ノ事項ニ該當スル者ト認ムルトキハ豫戒命令ヲ為スコトヲ得

一　一定ノ生業ヲ有セス平常粗暴ノ言論行為ヲ事トスル者

二　總テ他人ノ開設スル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者

三　公私ヲ問ハス他人ノ業務行為ニ干渉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者

四　第二號又ハ第三號ニ掲クル妨害ヲ為スノ目的ヲ以テ第一號ヨリ第三號マテニ記載シタル者ヲ使用シタル者

第二條　豫戒命令ハ左ノ如シ

一　一定ノ期限内ニ適法ノ生業ヲ求メテ之ニ從事スヘキコトヲ命ス

二　總テ他人ノ開設スル集會ニ立入リ妨害ヲ為スヘカラサルコトヲ命ス

三　如何ナル口實ニ拘ハラス財物ヲ强請シ不當ノ要求ヲ為シ强テ面會ヲ求メ脅迫ニ渉ル書面ヲ用ヒ勸告書ヲ送リ又ハ如何ナル方法タルヲ問ハス暴威ヲ示シテ他人ノ進退意見ヲ變更セシメントシ其他他人ノ業務行為ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ所行ヲ為スヘカラサルコトヲ命ス

四　人ヲ使用シテ總テ他人ノ開設シタル集

會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシ又ハ他人ノ業務行為ニ干渉シテ其自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ所行ヲ為サシメサルコト及ヒ豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ扶助シ又ハ使用スヽカラサルコトヲ命ス但シ親族ノ故ヲ以テ之ヲ扶助スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前條第一號ニ該當スル者ニ對シテハ第一號第二號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ前條第二號第三號ニ該當スル者ニ對シテハ第二號第三號ノ事項ヲ併セテ命令シ前條第四號ニ該當スル者ニ對シテハ第四號ノ事項ヲ命令ス

第三條　豫戒命令ヲ受ケタル者其現住居ヲ轉スルトキハ轉居ノ前二十四時間内ニ其旨ヲ舊住居ノ所轄警察署ニ届出テ轉居ノ後廿四時間内ニ其旨ヲ新住居ノ所轄警察署ニ届出ツヽシ

第四條　豫戒命令ヲ受ケタルヨリ三年以内ニ其命令又ハ第三條ノ規程ニ違犯シタル者ハ

左ノ區別ニ從ヒ之ヲ處罰ス

第二條第一號ノ違犯者ハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二條第二號ノ違犯者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮ニ處ス

第二條第三號ノ違犯者ハ一月以上四月以下ノ重禁錮ニ處ス其所犯官吏又ハ公吏ノ職務ニ對スルトキハ一等ヲ加フ

第二條第四號ノ違犯者ハ二月以上六月以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三條ノ違犯者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五條　豫戒命令ヲ為スニハ命令書ヲ作リ其命令ヲ受クル者ノ氏名年齢身分職業本籍住所第一條第何號ニ該當スル者タルコト第二條ニ記載シタル命令第三條ノ全文第四條ニ記載シタル違犯者ノ罰例竝ニ命令ヲ為シタル年月日警視總監北海道廳長官府縣知事官

氏名ヲ記載シテ本人ニ下付シ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第六條　豫戒命令ヲ受ケタル者一年以上ヲ経過シ悛改ノ情狀著シキトキハ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ於テ其命令ヲ解除スルコトヲ得此場合ニ於テハ同時ニ之ヲ其地方ニ於テ公布ス

第七條　豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ止宿又ハ同居セシムル者ハ二十四時間内ニ其旨ヲ所轄警察署ニ届出テ又所轄警察署ノ要求アルトキハ本令ノ施行ニ關スル事項ニ付事實ノ申立ヲ為スヘシ若シ其届出ヲ怠リ又ハ不實ノ申立ヲ為シタルトキハ三圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　豫戒命令違犯ノ刑ハ其本住所ノ地ノ所屬監獄ニ於テ之ヲ執行スルコトヲ得

第九條　本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

豫戒令ト他諸令トノ對照

豫戒令第一條　警視總監北海道廳長官府縣知事ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持スル為メ左ノ事項ニ該當スル者ト認ムルトキハ豫戒命令ヲ為スコトヲ得

一　一定ノ生業ヲ有セス平素粗暴ノ言論行為ヲ事トスル者（第二條ノ第一号第二号第三号ノ事項ヲ併セテ命令）

二　總テ他人ノ開設スル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者（第二條ノ第二号第三号ノ事項ヲ併セ

テ命令ス)

三　公私ヲ問ハス他人ノ業務行為ニ干渉シテ其ノ自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者(仝上)

四　第二號又ハ第三號ニ掲クル妨害ヲ為スノ目的ヲ以テ第一號ヨリ第三號マテニ記載シタル者ヲ使用シタル者(第二條ノ事項ヲ命令ス)

同第二條　豫戒命令ハ左ノ如シ

一　一定ノ期限内ニ適法ノ生業ヲ求メ之ニ

二

従事スヘキコトヲ命ス(命令違犯者ハ三日以上十日以下ノ拘留又ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料)

○警察犯處罰令(明治四十一年九月内務省令第十六号)

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未満ノ拘留ニ處ス

三　一定ノ住居又ハ生業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

二　總テ他人ノ開設スル集會ニ立入リ妨害

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヲ為スヘカラサルコトヲ命ス(命令違犯者ハ十一日以上二月以下ノ重禁錮)

○警察犯處罰令

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

十四　劇場寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ妨害ヲ為シタル者

○治安警察法 法律第三十六号 明治三十三年三月

第十二條　集會又ハ多衆運動ノ場合ニ於テ故ラニ喧擾シ又ハ狂暴ニ渉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ現場ヨリ退去セシムルコトヲ得(退去ヲ命セラレタル後仍退去セサル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ二十圓以下ノ罰金)

○行政執行法 法律第八十四号 明治三十三年六月

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

第一條　當該行政官廳ハ泥酔者、瘋癲者自殺ヲ企ツル者其ノ他救護ヲ要スト認ムル者ニ對シ必要ナル檢束ヲ加ヘ戎器、兇器其ノ他ノ危險ノ虞アル物件ノ假領置ヲ為スコトヲ得暴行、鬪爭其ノ他公安ヲ害スルノ虞アル者ニ對シ之ヲ豫防スル為必要ナルトキ亦同シ

前項ノ檢束ハ翌日ノ日没後ニ至ルコトヲ得ス又假領置ハ三十日以内ニ於テ其ノ期間ヲ定ムヘシ

三　如何ナル口實ニ拘ラス賊物ヲ強請シ不當ノ要求ヲ為シ強テ面會ヲ求メ脅迫ニ渉ル書面ヲ用ヒ勸告書ヲ送リ又ハ如何ナル方法タルヲ問ハス暴威ヲ示シテ他人ノ進退意見ヲ變更セシメントシ其ノ他他人ノ業務行為ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ所業ヲ為スヘカラサルコト

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

ヲ命ス(命令違反者ハ一月以上四月以下ノ重禁錮其ノ所犯官吏又ハ公吏ノ職務ニ對スルトキハ一等ヲ加フ)

○警察犯處罰令

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留ニ處ス

四　故ナク面會ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行為ヲ為シタル者

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一　合力、喜捨ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者

三　濫ニ寄附ヲ強請シ又ハ牧利ノ目的ヲ以テ強テ物品、入場券等ヲ配付シタル者

四　入札ノ妨害ヲ為シ又ハ共

同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ對シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタル者

五　他人ノ業務ニ對シ悪戯又ハ妨害ヲ為シタル者

七　新聞紙、雑誌其ノ他ノ出版物ノ購讀又ハ廣告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者

八　申込ナキ新聞紙、雑誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ廣告ヲ為シ其ノ代料ヲ請求シタル者

○治安警察法（法律第三十六号明治三十三年三月）

第十七條　左ノ各號ノ目的ヲ以テ他人ニ對シテ暴行、脅迫シ若ハ公然誹毀シ又ハ第二號ノ目的ヲ以テ他人ヲ誘惑若ハ煽動スルコトヲ得ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

一　勞務ノ條件又ハ報酬ニ関シ協同ノ行動ヲ為スヘキ團結ニ加入セシメ又ハ其ノ加入ヲ妨クルコト

二　同盟解雇若ハ同盟罷業ヲ遂行スルカ為使用者ヲシテ勞務者ヲ解雇セシメ若ハ勞務ニ従事スルノ申込ヲ拒絶セシメ又ハ勞務者ヲシテ勞務ヲ停廢セシメ

若ハ勞務者トシテ雇傭スルノ申込ヲ拒絶セシムルコト

三　勞務ノ條件又ハ報酬ニ関シ相手方ノ承諾ヲ強ユルコト

耕作ノ目的ニ出ツル土地賃貸借ノ條件ニ関シ承諾ヲ強ユルカ為相手方ニ對シ暴行、脅迫シ若ハ公然誹毀スルコトヲ得ス

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

○刑法

第二百二十二條　生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フヘキコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦同シ

第二百二十三條　生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ又ハ暴行ヲ用ヒ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

キ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ
權利ヲ妨害シタル者亦同シ
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百三十三條　虛偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若ハ其ノ業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十四條　威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

○衆議院議員選擧法（法律第七十三号明治三十三年三月）

第八十八條　左ノ各號ニ該當スル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

一　選擧ニ関シ選擧人ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ拐引シタル者

二　選擧人ニ對シ往来ノ便ヲ

妨ケ又ハ詐偽ノ手段ヲ以テ選擧權ノ行使ヲ妨害シ若ハ投票ヲ為サシメタル者

三　選擧ニ關シ選擧人又ハ其ノ關係アル社寺、學校、會社、組合、市町村等ニ對スル用水、小作、債權、其ノ他利害ノ關係ヲ利用シ選擧人ヲ威逼シタル者

○府縣制（法律第六十四号明治三十二年三月）

第四十條　府縣會議員ノ選擧ニ付テハ衆議院議員選擧ニ關スル罰則ヲ準用ス

（市制町村制及郡制モ仝樣準用ノ規定アリ）

四　人ヲ使用シテ他人ノ開設シタル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシ又ハ他人ノ業務行為ニ干渉シテ其ノ自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ所業ヲ為サシ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

メサルコト及ヒ豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ扶助シ又ハ使用スヘカラサルコトヲ命ス但シ親族ノ故ヲ以テ之ヲ扶助スル場合ハ此ノ限ニ在ラス(命令違犯者ハ二月以上六月以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金)

○警察犯處罰令

第四條　本令ニ規定シタル違反行為ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情状ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

○刑法

第六十一條　人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

第六十二條　正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp/

準ス

第六十三條　從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

年別	受命者總數	執行後滿一年以上經過シ解除シタル人員	執行期間滿了シ解除シタル人員	執行期間中ニ死亡セシ人員	現ニ受命中ノ人員
明治三七	一〇七	×		×	
三八	六九	一〇		一	
三九	七八	一六			
四〇	八八	二			
四一	四二	二			
四二	一八	一五		一	
四三	六	四		二	
四四	一	三		六	
四五	一	一		一	
大正元				三	
二	一五	一		三	
合計	四二四	九四	二九七	一七	一六

備考　×ハ三十五、六年中ニ受命セル人員ニシテ本表掲載ノ受命者總數中ニ含マス

秘

豫戒令廢止ノ件審査報告

謹テ今回御諮詢ノ豫戒令廢止ノ件ヲ審査スルニ豫戒令ハ明治二十五年一月公布ノ勅令ニシテ其ノ内容ハ(一)一定ノ生業ヲ有セス平常粗暴ノ言論行為ヲ事トシ又ハ他人ノ開設スル集會若ハ他人ノ業務行為ヲ妨害スル者等ニ對シテハ地方長官ハ形式ヲ具備スル書面ヲ以テ豫戒命令即チ行狀ヲ矯正スヘキ旨ノ戒告ヲ為スコトヲ得(二)斯ノ如キ豫戒命令ヲ受ケタル者其ノ命令ニ違反スル場合ニ於テハ之ヲ犯罪トシテ

處罰スヘキコトヲ規定シ尚(三)豫戒命令ヲ受ケタル者轉居ヲ為ストキハ新舊兩所ノ警察署ニ届出ヲ為スヘキコト(四)地方長官ハ受命者ノ氏名年齢身分職業等ヲ公示スヘキコト(五)受命者ヲ出宿又ハ同居セシムル者ハ二十四時間内ニ其ノ旨ヲ警察署ニ届出ツヘキコト(六)受命者又ハ之ヲ止宿若ハ同居セシムル者前記ノ届出ヲ怠ルトキハ之ヲ犯罪トシテ處罰スルコト等ヲ規定スルモノナリ然ルニ同令實施以来治安警察法警察犯處罰令及行政執行法等ノ制定衆議院議員選舉法刑法等ノ改正アリテ豫戒令ノ禁過セムトスル非行ハ右ノ諸規程ニ依リ充分其ノ取締ヲ為スヲ得ルコトトナレリ尤モ非行ヲ直ニ犯罪トシテ處罰セス豫メ戒告ヲ為スヲ必要トスルコト及非行者ノ行動ニ行政上ノ檢束ヲ加フルノ制ハ豫戒令ノ特色トスル所ナレトモ今本令ヲ廢止スルモ戒告ヲ必要ト認ムル場合ニハ實際上警察官ニ於テ豫戒ヲ為シ非行者之ニ從ハサルニ至リテ始メテ處罰ノ手續ヲ執ルコトヲ得ヘク又非行者ノ行動ヲ檢束スルハ

取締上多少ノ利益ナキニ非スト雖モ之ニ伴フ弊害ナキニ非ス是ヲ以テ豫戒令ハ近年多ク其ノ適用ヲ見サル有様トナリ諸府縣ニ於ケル受命者ノ数ハ漸次減少スルノ傾向ヲ示セリ昨年中ニ豫戒命令ヲ受ケタル者十数名アリテ今尚執行期間中ニ属セリト雖モ将来必スシモ本令ヲ存置スルノ必要ヲ認メサレハ本件ハ此儘可決セラレ然ルヘキモノト思料ス

右謹テ審査ノ結果ヲ報告ス

大正三年一月八日　　樞密院書記官長　下岡忠治

樞密院議長公爵山縣有朋殿

豫戒令第一條　豫戒令ト他諸令トノ對照

警視總監並海道廳長官府縣知事ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持スル為左ノ事項ニ該當スル者ト認ムルトキハ豫戒命令ヲ為スコトヲ得

一　一定ノ生業ヲ有セス平素粗暴ノ言論行為ヲ事トスル者（第二條ノ第一号第二号第三号ノ事項ヲ係セテ命令ス）

二　總テ他人ノ開設スル集會ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者（第二條ノ第二号第三号ノ事項ヲ係セテ命令ス）

三　公私ヲ問ハス他人ノ業務行為ニ干渉シテ其ノ自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントシタル者（仝上）

四　第二号又ハ第三号ニ掲クル妨害ヲ為スノ目的ヲ以テ第一號ヨリ第三号マテニ記載シタル者ヲ使用シタル者（第二條ノ第四号）

第二條（事項ヲ命令スヲ）豫戒命令ハ左ノ如シ

一 一定ノ期限内ニ適法ノ生業ヲ求メ之ニ從事ス（キコトヲ命ス（命令違犯者ハ三日以上十日以下ノ拘留又ハ一円以上一円九十五錢以下ノ科料）

○警察犯處罰令（明治四十一年九月内務省令第十六号）

第一條 左ノ各號ノ一ニ該当スル者ハ三十日未満ノ拘留ニ處ス

三 一定ノ住居又ハ生業ナクシテ諸方ニ徘徊スル者

二 總テ他人ノ開設スル集會ニ立入リ妨害ヲ為スヘカラサルコトヲ命ス（命令違犯者ハ十日以上三月以下ノ重禁錮）

○警察犯處罰令

第二條 左ノ各號ノ一ニ該当スル者ハ三十日未満ノ拘留又ハ二十円未満ノ科料ニ處ス

十四 劇場寄席其ノ他公衆會同ノ場所ニ於テ會衆ノ安寧ヲ害シタル者

○治安警察法（法律第三十六号 明治三十三年三月）

第十二條 集會又ハ多衆運動ノ場合ニ於テ故ラニ喧擾シ又ハ狂暴ニ渉ル者アルトキハ警察官ハ之ヲ制止シ其ノ命ニ從ハサルトキハ現場ヨリ退去セシムルコトヲ得（退去ヲ命セラレタル後仍退去セサル者ハ一月以下ノ輕禁錮又ハ二十円以下ノ罰金）

如何ナル口実ニ拘ラス財物ヲ強請シ不當ノ要求ヲ為シ強テ面會ヲ求メ脅迫ニ渉ル書面ヲ用ヒ勸告書ヲ送リ又ハ如

何ナル方法タルヲ問ハス暴威ヲ示シテ他人ノ進退意見ヲ変更セシメントシ其ノ他他人ノ業務行為ヲ妨害シ又ハ妨害セントスル所業ヲ為スヘカラサルヲ命ス(命令違反者ハ一月以上四月以下ノ重禁錮其ノ所犯官吏又ハ公吏ノ職務ニ対スルトキハ一等ヲ加フ)

○警察犯處罰令

第一條　左ノ各号ノ一ニ該当スル者ハ三十日未満ノ拘留ニ處ス

四　故ナク面会ヲ強請シ又ハ強談威迫ノ行為ヲ為シタル者

第二條　左ノ各号ノ一ニ該当スル者ハ三十日未満ノ拘留ニ処ス

一　金力、喜捨ヲ強請シ又ハ強テ物品ノ購買ヲ求メタル者

三　濫ニ寄附ヲ強請シ又ハ收利ノ目的ヲ以テ強テ物品、入場券等ヲ配付シタル者

四　入札ノ妨害ヲ為シ又ハ共同入札ヲ強請シ若ハ落札人ニ対シ其ノ事業又ハ利益ノ分配若ハ金品ヲ強請シタル者

五　他人ノ業務ニ対シ悪戯又ハ妨害ヲ為シタル者

七　新聞紙、雑誌其ノ他ノ出版物ノ購読又ハ広告掲載ニ付強テ其ノ申込ヲ求メタル者

八　申込ナキ新聞紙、雑誌其ノ他ノ出版物ヲ配付シ又ハ申込ナキ広告ヲ為シ其ノ代料ヲ請求シタ

○刑法改正ニ係ル者

第百三十七条

第二百三十二條　生命、身体、自由、名誉又ハ財産ニ対シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百三十三條　生命、身体、自由、名誉若クハ財産ニ対シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シタル者亦前項ノ例ニ同シ

（親族ノ生命、身体、自由、名誉又ハ財産ニ害ヲ加フ可キコトヲ以テ人ヲ脅迫シタル者亦前項ノ例ニ同シ）

シテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ権利ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身体、自由、名誉又ハ財産ニ対シ害ヲ加フ可キコトヲ以テ脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ権利ヲ妨害シタル者亦前項ノ例ニ同シ

第二百三十四條　威力ヲ用ヒ人ノ業務ヲ妨害シタル者亦前條ノ例ニ同シ

○衆議院議員選挙法（法律第七十三号明治三十三年三月）

第八十八條　左ノ各号ニ該当スル者ハ三月以上二年以下ノ軽禁錮ニ處シ五円以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

一　選挙ニ関シ選挙人ニ暴行脅迫ヲ加ヘ若ハ之ヲ拐引シタル者

二　選挙人ニ対シ往来ノ便ヲ妨ケ又ハ詐偽ノ手段ヲ以テ

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百三十三條　虚偽ノ風説ヲ流布シ又ハ偽計ヲ用ヒ人ノ信用ヲ毀損シ若ハ其ノ業務ヲ妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

選挙権ノ行使ヲ妨害シ若ハ投票ヲ為サシメタル者

三　選挙ニ関シ選挙人又ハ其ノ関係アル社寺、学校、会社、組合、市町村等ニ対スル用水、小作、債権其ノ他利害ノ関係ヲ利用シ選挙人ヲ威迫シタル者

○府県制　法律第二十四号　明治三十二年三月

第四十條　府県会議員ノ選挙ニ付テハ衆議院議員選挙ニ関スル罰則ヲ準用ス

（市制町村制及郡制モ全様準用ノ規定アリ）

四　人ヲ使用シテ徒ラニ他人ノ開設シタル集会ヲ妨害シ又ハ妨害セントシ又ハ他人ノ業務行為ニ干渉シテ其ノ自由ヲ妨害シ又ハ妨害セントスルノ所業ヲ為サシメサルコト及ヒ豫戒命令ヲ受ケタル者ヲ扶助シ又ハ使用スカラサルコトヲ命ス但シ親族ノ故ヲ以テ之ヲ扶助スル場合ハ其ノ限ニ在ラス（命令違犯者ハ二月以上六月以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金）

○警察犯處罰令

第四條　本令ニ規定シタル違反行為ヲ教唆シ又ハ幫助シタル者ハ各本條ニ照シ之ヲ罰ス但シ情状ニ依リ其ノ刑ヲ免除スルコトヲ得

○刑法　六一　六六　七二

豫戒命令施行ニ関スル調（大正二年十二月調）

四二〇人　三拾七年以降ニ於ケル受命者総数

内譯

九四人　執行後満一年以上経過シ改悛ノ情顕著ナリト認メ命令解除セルモノ

二九七人　執行期間満了シ解除セルモノ

一一七人　執行期間中ニ死亡セルモノ

一二人　現ニ受命中ノモノ

右ノ年別ニ依ル内訳左記ノ如シ

左記

年別	免官者総数	執行後満一年以内ニ復職シ解除セル人員	執行期間満了ニ至リ解除セル人員	執行期間中現ニ免官中ノ人員	免官者総数
明治三七	一〇七	×三九			
三八	六九	×二四			
三九	七八	×一六			
四〇	八八	二			
四一	四二	二三			
四二	一八	一五			
四三	六	四	二	一	
四四	一	三	一	一	
四五	一	一	一	一	
大正元年	一五	一	一	一	一五
合計	四二四	×七八	九四	×一七	二九七

備考 ×ハ二十五、六年中ニ免官セル人員ニシテ本表掲載免官者総数中ニハ含マズ

豫戒令廃止建議案経過

第四回帝国議会衆議院議員長谷場純孝外四名提出（明治三十六年二月決可）

豫戒令廃止建議案

本年一月勅令第十一号豫戒令ハ国民ノ権利ヲ保護スル為メ行政上必要トシテ発布サレタモノナルヘシト雖第二帝国議会議員総選挙ニ際シ地方官ノ處置甚タ偏頗ニ失シ寳ニ濫用ヲ極メタリ若シ如此命令永ク存立スルアラハ却テ国民ハ安心ヲ欠キ大ニ権利ヲ抑屈サルルニ至ランコト疑フヘカラサルナリ故ニ其ノ目的ヤ可ナルカ如シト雖モ其實大ニ弊害アルヲシテ速ニ該令ヲ廃止セラ

レンコトヲ
右政府ニ建議ス

第八回帝國議會衆議院議員平田藏
外一名提出（明治三十八年一月決可）

豫戒令廢止建議

明治三十五年勅令第十一號豫戒令ハ公共ノ安寧ヲ保持スル爲ノ行政上必要トシテ發布セラレタルモノナルヘシト雖モ却テ國民ハ權利ヲ抑屈セラレ安心ヲ欠クニ至ルノ疑ナキ能ハス殊ニ本令發布ノ當時ト現今トハ大ニ其狀勢ヲ異ニシ如斯命令施行ノ必要ナキヲ認ム

故ニ速ニ廢止セラレンコトヲ
右建議ス

第十回帝國議會衆議院議員竹内正志
外二名提出（明治三十年三月決可）

豫戒令廢止建議案

明治二十五年勅令第十一號豫戒令ハ保安條例ト同シク憲政ノ本旨ヲ傷ケ帝國ノ體面ヲ汚スモノニシテ國民ハ之カ爲ニ權利ヲ抑屈セラレ常ニ安心ヲ欠クヲ見ル殊ニ本令發布ノ當時ト現今トハ大ニ社會ノ情勢ヲ異ニスルモノアレハ依然此ノ命令ヲ存スルノ必要ナシ故ニ速

ニ之ヲ廃止セラレンコトヲ望ム

右建議ス

第十三回帝国議會衆議院議員金山後輩
提出（明治三十一年五月決可）

豫戒令廃止建議案

（内容前回提ニ付畧ス）

第十三回帝国議會衆議院議員加藤政之助
外一名提出（明治三十二年三月決可）

明治廿五年勅令第十一號豫戒令廃止建議案

（内容官報速記録ニ記載ナシ）

第八回（明治三十八年）衆議院ニ於テ政府委員都筑馨六ヨリ豫戒令廃止建議案ニ対シ大要左ノ反対意見ヲ表明ス

豫戒令ハ政治上ノ点ヨリ見ルモ行政上ノ秩序或ハ政談集會ノ安寧ヲ保護スル為或ハ良民ヲシテ堵ニ安ンシテ其ノ業ニ就カシムル為又社交上ノ点ヨリ見ルモ着実ノ人民ヲシテ其ノ業務ヲ執ラシムル為必要ニシテ流動的元素ヲ含メル大都會ニ於テハ更ニ必要アリト思考ス斯ノ如キ制度ハ他ノ国ニ於テモ之ヲ見ル所ニシテ要スルニ政府ハ今日ニ於ケル社會ノ状勢カ未タ豫戒令ヲ廃止スルノ程度ニ進マサルヲシテ存置ノ要ヲ認ム